

植物多様性センターの「もうひとつの真冬のドングリ」

「地面に落ちて落ち葉の下で春を待つ」というのがよく知られたドングリの冬の姿です。ところが、枝の先についたまま、冬を過ごすドングリもあります。「そんなの見たことないよ」という方、じつは、この時期枝についているのは、2年がかりで実が大きくなる種類です。1年目の赤ちゃんドングリは極小サイズ。その気になってよく探さないと見つかりません。学習園で今年は4種類のドングリの赤ちゃんが観察できます。探してみてください。



クヌギ: 葉腋から短い柄をつけた3ミリほどの赤ちゃんドングリ



ウバメガシ: 細い柄の先に2ミリほどの若いドングリを2個つける



マテバシイ: 大きなドングリのマテバシイは赤ちゃんも大きい



スタジイ: 1年目のドングリはとても小さく、殻斗も目立たない